

薬剤部 DI ニュース

現在の不活化ポリオワクチンの状況について

ポリオとはポリオウイルスにより中枢神経細胞が破壊され、主に四肢に非対称性の弛緩性麻痺を起こす感染症です。わが国の医学用語としては、「急性灰白髄炎」が当てられています。また、別名「小児まひ」とも呼ばれています。わが国では50年前までは流行を繰り返していましたが、予防接種の効果で流行は急速に鎮静化されました。わが国では1980年を最後に野生株ポリオウイルスによる麻痺患者の発生はなくなり、2000年には世界保健機関(WHO)は日本を含む西太平洋地域のポリオ根絶を宣言しました。しかし、現在でもナイジェリア、インド、パキスタン、アフガニстанはポリオ常在国であり、これらの周辺国にもポリオ患者は見られます。これらの地域で日本人が感染したり、日本に野生株ポリオウイルスが入ってくる可能性も否定できません。予防のために、ポリオワクチンの接種を受けておく必要があります。

平成 24 年 4 月 19 日の薬事・食品衛生審議会医薬品第二部会において、不活化ポリオワクチンの導入を承認しました。また 4 月 23 日の厚生労働省の検討会で、

- ポリオワクチンの接種歴がない場合は不活化ワクチンを4回接種。
- 生ワクチンを1回接種している場合は不活化ワクチンを3回接種。
- 国内未承認の不活化ワクチンを接種している場合は、医師の判断と保護者の同意があれば一部の接種を終えたとして、残りの回数を接種。
- 生ワクチンを2回接種している場合は追加接種は不要

という案を了承しました。また 9 月 1 日より従来の生ワクチンを取りやめ、不活化ワクチン切り替えの方向で動いています。

	不活化ポリオワクチン IPV	ポリオ生ワクチン OPV
主成分	不活化ポリオウイルス由来	弱毒性の生ポリオウイルス
接種方法	皮下注射を 4 回	経口投与を 2 回
効果	主として血中中和抗体の誘導 (腸管でのウイルス増殖を抑えない)	血中中和抗体と腸管粘膜免疫 (腸管でのウイルス増殖を効果的に抑える)
ワクチン由来ウイルスの排泄	排泄されない (接触者に伝播せず)	便中に約 1 ヶ月間排泄される(抗体のない接触者への感染による免疫付与)
免疫持続	血中中和抗体価の低下が早い	血中中和抗体価の長時間持続
ワクチン関連麻痺	なし	ごくまれにワクチン関連麻痺を発症 厚生労働省資料:ポリオの予防接種を受けた人の中で、ポリオによる麻痺の可能性があると認定されたのは、10年間で15人(100万人への接種当たり約 1.4 人)